



平成23年12月13日

【東日本大震災の災害廃棄物処理の現状と課題～大規模災害に備えて現地から学ぶ～】セミナーの開催

<概要>

・東日本大震災では未曾有の津波被害で多数の建物が倒壊し、大量のがれきが発生した。がれきは仮置場に移されたが、その処理・処分については多くの問題を抱えている。災害当初から、がれきの対策に関わってきた岩手県庁の災害廃棄物処理担当者を岡山大学にお呼びし、現場でのこれまでの対応と今後の計画について講演を頂く。続いて、災害廃棄物発生量の推計や、がれきのリサイクル及び処理についての検討、放射性廃棄物への対応に関する調査・研究を行う岡山大学及び他大学の研究者にこれまでの知見についてご披露いただき、大規模な自然災害により発生する災害廃棄物に対処するためにどのような対策が必要かについて議論する。

日時 : 平成24年1月24日(火) 予定時間 9:30~17:00

場所 : 岡山大学創立五十周年記念館大ホール

主催 : 岡山大学廃棄物マネジメント研究センター

後援 : 廃棄物資源循環学会

参加費 : 無料

<説明>

東日本を襲った地震と津波の災害から8か月以上が経過した。環境省は平成24年3月末までに被災現場から災害廃棄物の撤去を完了し、平成26年3月末までには災害廃棄物の処理を完了するという方針を打ち出しているが、多くの地方自治体では処理計画が順調に進んでいるとはいえない。被災地をかかえた地方自治体は、これまでに災害廃棄物の発生量予測に始まり、仮置場の緊急選定、倒壊家屋解体用・がれき運搬用の重機の手配、腐敗性有機廃棄物の緊急処分、高塩分を含有した木材がれきの焼却安全性の確認、がれき焼却灰への放射性物質の濃縮とその処分の問題、そして放射能汚染の社会不安を背景とした県外地方自治体のがれき受入拒否など、様々な出来事が発生し、現場での対応をはかってきた。それらの経験は、今後の大型自然災害によって生じる災害廃棄物への対策に大いに役立つものと考えられる。そこで、本セミナーでは、実際に災害廃棄物の問題に対応された岩手県庁資源循環推進課佐々木秀幸氏と、災害直後から岩手県庁とともに調査をされた岩手大学農学部颯田尚哉教授を岡山大学にお呼びし、災害発生から現在までの災害廃棄物対策の知見についてご披露いただく。

また岡山大学からは、木材がれきのマテリアルリサイクル及びサーマルリサイクルの検討や、高レベ

PRESS RELEASE

ル放射性廃棄物の貯留や低レベル放射性物質の除染の技術動向、津波倒壊家屋からのがれき発生量の推計や、がれき処理のための支援システム開発などの研究成果について報告する。また、他大学からのゲスト講演者についても交渉中である。最後に、大規模な自然災害により発生する災害廃棄物に対処するためにどのような対策が必要かについて議論する。

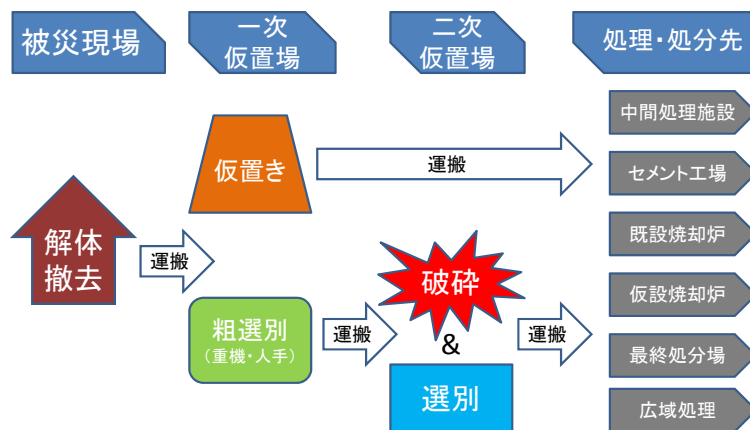


図1 岩手県における災害廃棄物処理の流れ



写真1 動きだしたがれきの前処理（大船渡市）

<お問い合わせ>

岡山大学廃棄物マネジメント研究
センター・藤原健史

（電話番号）086-251-8994

（FAX番号）086-251-8994